檜枝岐小中学校　図画工作・美術科教育全体計画

めざす児童生徒の姿

小学校	中学校
◇造形的な創造活動の基礎的な能力を身につけている児童 ◇感性を働かせ、つくりだす喜びを味わいながら、進んで造形活動に取り組むことができる児童	◇自ら主題を生み出し、造形活動に取り組むことができる生徒 ◇美術を愛好するとともに、我が国や諸外国の美術文化に関心をもち、主体的に関わろうとすることができる生徒

めざす児童生徒を育てる、9年間連続して取り組む学習スタイル

共通事項を適切に位置づけ、創造的な技能や発想・構想の能力を高める指導の工夫	見方や考え方を深める鑑賞活動の工夫
○発達段階に応じ、多様な材料や用具、表現方法を体験したり、混色による色づくりを体験したりさせることで、児童生徒がそれらの技能を選択・決定して表現できるようにする。 ○絵や立体、工作に表す対象を客観的に見つめる機会の設定を工夫し、対象から形や色などの特徴を感じ取ることができるようにする。 ○形や色、イメージなど共通事項の視点から、児童生徒が表したいこと、表したこと、感じ取ったことなどを伝え合う鑑賞の場を設定し、言語活動を充実させる。	○発達段階に応じ、身の回りの題材や日本及び諸外国の美術作品などから、児童生徒が興味関心をもてる鑑賞の題材を設定する。 ○作品等の提示の仕方を工夫するとともに、見る視点を与える、比較させるなど、児童生徒が主体的によさや美しさを感じ取ることができるようにする。 ○児童生徒の作品や美術作品等を適切な場所に展示し、全児童生徒が互いに鑑賞し合える環境を整える。

改善すべき児童生徒の実態

小学校	中学校
■材料や用具を生かして造形表現を行う経験が少なく、創造的な技能が低い。 ■形や色などからイメージをもち、豊かに発想して造形活動に取り組むことが苦手である。	■表す対象を見つめ、形や色彩の特徴を感じ取ること、またそれらを基に、主題を生み出す能力が低い。 ■形や色彩、材料などを基に対象のイメージをとらえること、また、とらえたイメージから豊かに発想して造形活動に取り組むことが苦手である。